



連続流れ分析装置導入による 競争力強化・利益改善計画

排水・環境水等に含まれる全窒素、全りん、ふっ素の濃度分析において、連続流れ分析装置導入により、手間削減、時間短縮、処理能力アップ、コスト削減を実現し、これにより顧客へのコンサルティングの取り組みを展開することで、顧客サービスの向上と他社との競争力を強化し利益改善を図る。

1 本事業への取り組みの経緯

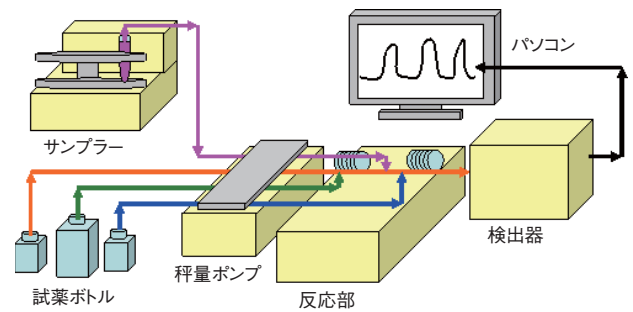
平成25年9月にJIS K 0102「工場排水試験方法」が改正され、これを受けて環境省が測定方法を改正した。かねてから分析業界では、大手企業の進出とそれに伴うダンピング競争が激しく、コスト削減を迫られている。改正された項目の内、ふっ素、全窒素、全りんの分析を自動化することで、競争力を強化することとした。



チャレンジする力が未来を開く!

2 実施内容

オートアナライザー(ピーエルテック株式会社製)を2台導入。1台を全窒素(T-N)・全りん(T-P)分析に、1台をふっ素(F)分析用とした。メーカーの教育担当より各装置の運転方法やメンテナンスのトレーニングを実施し、その後手分析で実施したサンプルを利用し試運転を重ねた。試運転を行った結果、想定していた内容と多少の差異はあるが、問題ないことを確認。また、夜間に無人で動かすためのオートシャットダウン機能も正常に動作することを確認し、予想以上の効果が期待できることを確信した。処理能力アップにより、以前よりも積極的に顧客の要請に応えることができる体制が整い、納期短縮や迅速な情報、コンサルティング営業を強く打ち出した営業展開が可能となった。



3 取組成果・波及効果

窒素・りん分析では、1つの試料で2つの項目を同時に分析できる「オートサンプラー機能」を使うことにより、無人での分析が可能となった。ふっ素分析では、前処理工程の水蒸気蒸留などの手作業が減少した。こうしたことにより処理能力は窒素・りん分析では4倍、ふっ素分析では24倍に大きく改善。試薬使用量は窒素・りん分析では1/6、ふっ素分析では1/80に低減し廃液を削減することができた。また、手分析から機器分析に移行することにより、コスト削減だけでなく、ヒューマンエラーの防止を含めた精度の向上が実現した。

今後の展望・活動予定は?

地球環境問題が深刻化している昨今、「地球的に考え、地球的に行動しよう」というWHOのテーゼを掲げ、長崎県を中心に佐賀、福岡、熊本各県で活動しています。地域環境改善に寄与し、ひいては地球環境保全に貢献していく所存です。今後も原価低減を進め、他社との競争力を強化し、営業エリアの拡大を目指したいと思っています。価格のみでなく、納期短縮も重要な業務ですが、今回の改善をきっかけにして、さらなる体質改善を進めていきたいと考えています。



会社社屋

今後も原価低減を進め、他社との競争力を強化し、営業エリアの拡大を目指したいと思っています。価格のみでなく、納期短縮も重要な業務ですが、今回の改善をきっかけにして、さらなる体質改善を進めていきたいと考えています。

事業者

西部環境調査株式会社

代表者

山本 利典

所在地等

〒859-3153 長崎県佐世保市三川内新町26-1

TEL 0956-20-3232

FAX 0956-20-3233

<http://www.serc.jp/>

E-mail:serc-eigyo@mba.nifty.ne.jp



設立年月

昭和55年2月

資本金

9,800万円

業種

技術サービス業(環境計量証明業)

従業員数

69名